

日中経済交流研究会新聞 日中経済交流研究会 2024年6月例会

日中両国の感覚を有する経営者が語る！中国経済の変化

開催日：2024年6月6日(木)／参加者：33名

(株)ジェーシーフレンド 代表取締役 榊 蓉美

日中経済交流研究会



本社：大阪府大阪市北区梅田（東京支店：東京都品川区北品川、上海現地法人：上海捷西商貿有限公司）

関連会社：(株)ピーオーワールド（EC事業）・根来繊維工業（株）（縫製工場 2023年4月M&A買収による新規事業）

創業：2001年9月4日／社員数：(株)ジェーシーフレンド 14名／売上高：11億円（単独売上金額）

事業内容：家庭・美容・健康雑貨、リハビリ・介護用品などの企画、製造、卸、輸出入、日本の商材を中国マーケットに紹介販売、

日中間及び東南アジアでのビジネス仲介業務、中国工場へのサポート業務・人材育成、翻訳通訳に関する業務

ジェーシーフレンドはどんな会社？

中国江蘇省で生まれた榊さん。日本での留学後、IT企業に就職して1999年に帰化します。退職後にカナダ、アメリカ、オーストラリアを周遊して日本のよさを再発見し、28歳の時、日本で(株)ジェーシーフレンドを設立します。

社名は、J=Japan、C=China、F=Friend の頭文字で、同じアジアである日本と中国とのビジネスの架け橋をテーマに「国際社会に貢献していきたい」という願いが込められています。

「石の上にも三年」と言いますが、設立当初は昼夜関係なく、毎週末は中国出張と、がむしゃらに働きました。一生懸命にやってきた結果、たくさんのよい出会いがあり、徐々にお客様が増えていきました。2007年上海現地法人の設立、2008年オフィス拡大移転、2012年カナダ、台湾、韓国、タイなどへ輸出など、業務の幅を広げ、売上高は6億円になりました。

そこからは売上高がなかなか伸びず、自分自身も勉強していかなければならないと思い、同友会に入会しました。2016年東京進出を決断し、ようやく今年、東京支店は4億の売上高になりました。大阪と東京の相乗効果が出てきたと感じています。

コロナ禍初期はあまり影響がなかったのですが、上海のロックダウンで危機感をかなり感じ、EC新規事業(BtoC、DtoC)を始めることにしました。そして、日本でモノづくりをしていかなければいけないという思いから、製造会社を買収しました。

「ジェーシーファミリー」家族のような絆

会社の方向性を社員研修などで社員と共有しています。毎年変化を起こすのではなく、3年後・5年後の人材の育成、会社の展開ビジョンを語るようにしています。

社員は国籍を問わず、やる気のある人を積極的に採用。また海外勤務(留学)経験者を積極的に採用しているので、社員は全員バイリンガル。全体会議は中国語で行っています。グローバルなコミュニケーションでお客様に安心していただいています。

同友会に入って学んだ組織経営。チーム制を基盤に運営・人材育成を行って、見える化をしています。若い人にチャンスを与えたいという思いがあり、社長面談で夢を聞いてかなえていけるようにしています。やりたいことを応援する会社でありたいと思っています。

厳しいことを言うこともありますが、社員旅行やバーベキュー、誕生日会、家族会などの交流を大切に、何かあれば助け合える会社をしています。



コロナ後の中国

コロナ禍以降に6回中国に出張し、中国経済が低迷していることを生で感じました。2019年までは輸出案件がそこそこありましたが、2020年に減少少なくなっているのを、上海の展示会に出展しました。そこで感じたのは、お金を使わなくなり、みな自信を持てなくなっているということ。ロックダウン以降、失業率も増え、飲食店も少なくなって、不動産価格も下がり、これからどうしたらいいのかという雰囲気があるように感じました。展示会も見には来てくれますが、新規での顧客獲得にはつながりませんでした。

一方で、中国メーカーの電気製品の成長が著しいと感じています。Hisense、Haier(AQUA)、Anker(スマホアクセサリ)などの商品を見かける機会が増えました。

会社を作ったときは電化製品は絶対やらないと決めていましたが、時代の変化に合わせて、ビジネスチャンスをつかむために勉強して、取り扱うことに決めました。NOVAマッサージガン、蓄熱式エコ湯たんぽ、冷蔵庫、CarPlayオンダッシュモニターなどを輸入販売しています。新しいこと、社員がやりたいと思ったことにチャレンジしていくことが大切だと思っています。

円安～M&Aにより日本でモノづくりへ

輸入事業が多いため、2022年からの円安で毎月赤字が続き、眠れない日もありました。いろいろな対策や、長年お付き合いがある工場からの協力に加えて運もあり、生き残ることができました。

商社としてやってきましたが、ロックダウンや円安の危機から、日本の工場でモノづくりができるように、2023年4月に根来繊維工業を買収しました。工場を買ったことで、MADE IN JAPANのモノを社員みんなで企画し、発信していきたいと思っています。

「社長が現状で満足することなく新しいことをやるから、この会社は面白い」と社員は言います。7年後の30期でグループ全体で売上高20億円をめざしていく絵を描いています。日本と中国だけでなく、アジアで活躍できる会社でありたいと思っています。

感想

パワフルな榊さんの報告を聞き、リーダーとして熱い夢や思いを語り、社員さんとともに成長している姿に感銘を受けました。経営者の責任として、事業を長く維持成長させていくために大切なことをたくさん教えていただきました。

文：日中経済交流研究会 広報委員会
勝井鋼業(株) 小島 広臣